

上川管内農業法人ネットワーク通信 「あぐり Corp.」



2023
夏号

発行責任者: 上川管内農業法人ネットワーク会長 中島 張
発行元: 上川農業改良普及センター

通30号(令和5年10月)

上川管内農業法人ネットワーク

「夏期研修会」が開催されました



花輪アドバイザーによる講演

※興味のある方は、ジェトロのホームページで詳細を確認できます。

ことが大事であるとのことでした。そのきつかけを提供するのが「新規輸出1万者支援プログラム※」であり、その流れなどを詳しく説明頂きました。

講演では「日本貿易振興機構(ジェトロ)」の概要や「新規輸出1万者支援プログラム」についての紹介、「農林水産物・食品の輸出状況」、「各国の農産物・食品の輸出規制・輸入手続きの調べ方」、「農産物・食品輸出における支援メニュー」について情報提供を頂きました。

輸出については「特別な企業」が取り組んでいるイメージがありますが、何か「きつかけ」があつて挑戦を始めた企業が地域には多くあり、それぞれの企業にあつた「挑戦を続ける」

アドバイザー 花輪 哲也氏
北海道貿易情報センター

講師: 独立行政法人 日本貿易振興機構
ジェトロの活用方法について

講演Ⅰ: 農産物・食品の輸出における

令和5年7月4日にアートのホテル旭川で講演会を開催しました。講師2名を迎えて講演を頂き、会員や地域内外の農業法人、関係機関など約40名が参加しました。



香山氏に講演に聴き入る参加者

の確保にも努めているようです。

輸出は、平成17年に海外商談会に参加した後、平成21年にシンガポール等への輸出を開始、さらにヨーロッパにも拡大されているとのことでした。食品衛生基準HACCPのほか、GLOBAL.G.A.P.認証を取得し、安全と信頼

香山氏の経験談を交えながら、ストーリー性のあるオンラインワンの商品づくり、ブランドデザイン、海外展開に至るまでのビジョンの立て方など、経営者に必要な視点を幅広く学ぶことができた有意義な研修会となりました。

講演Ⅱ: 「稼げる農業への挑戦2」

栽培から加工・販売の一貫体制を目指して
講師: 有限会社コウヤマ(熊本県)

代表取締役会長 香山 勇一氏

「有限会社コウヤマ」では、サツマイモの栽培から加工までを一環して自社で手がけ、販路拡大を目指し輸出も行っています。加工については平成5年に芋ペーストの製造から開始し、現在は主力商品の芋屋長兵衛商店「熊本いきなり団子」をはじめ、芋パウダーや冷凍焼き芋も加工販売しています。

8月31日に東神楽町、旭川市で開催し、当ネットワークの会員でもある2法人の現地視察研修を行いました。一般社団法人「北海道農業法人協会」からも多くの参加を頂き、約60名の出席となりました。

現地視察Ⅰ…「施設園芸における今後の課題と将来の展望」

講師 株式会社東神楽温室園芸

代表取締役 松木平 広行 氏

株式会社東神楽温室園芸は、設立されてから50年になります。当時は農事組合法人でしたが、現在は株式会社となり、松木平氏は3代目の社長となります。当日は社長の案内で、法人設立当初より長年使用されてきたガラスハウス



東神楽温室園芸を視察

12棟のほか、廃タイヤポイラー、JGAP認証を取得しているかいわれや豆苗の栽培施設を見学させて頂きました。主力品目は

水耕みつば、ミニトマト（養液栽培）、かいわれ・ブロッコリースプラウト、豆苗です。水耕みつばでは、働く人の労働負担を軽減するため高設栽培が導入されていました。また、労働生産性を向上させるため、水耕みつば以外にも新たにリーフレタスやサニーレタスを導入したり、需要が高まっている夏場のほうれんそう栽培に挑戦するなど、長年の養液栽培で培ってきた技術力という自社の強みを活かした経営を展開されていました。

今後の課題として、さらに50年続けていくためには、施設の改修とさらなる人材の育成が必要とのことで、大変参考になる話を伺うことができました。

現地視察Ⅱ…「6次化の本音」

講師 株式会社うけがわファーム

代表取締役 請川 幹恭 氏



農珈屋(奥)と米麦屋(手前)

株式会社うけがわファームDENEENは、大正13年創業、平成24年に会社を設立、請川氏は5代目となり、水稲、小麦、そば、大豆を



うけがわファームで6次化の取組を学ぶ

生産する一方で、飲食業も展開されています。自社のお米を多くの人に食べてもらいたいという思いから、カレーメニューを開発し、現在は農家レストラン「農珈屋」・「農珈屋旭川空港店」の2店舗を営業されています。さらに令和5年からは新たに「米麦屋」もオープン、自社の小麦と米粉、北海道産食材にこだわった焼きたてパンの販売も行っています。

これら6次化の取り組みに至るまでには多くの失敗があったようですが、「本質的な失敗とは行動しないこと！」という請川社長の言葉が印象的でした。また、農業と飲食業とパン屋の両立について、一人では限界であり、今後は共に同じ方向を共有できる人材を社内にて育てていくことが必要とのことでした。

この日は2カ所の現地視察を行いました。法人経営の安定と継続のためには、担い手の育成が重要な課題であることが認識できた一日となりました。